

D-3 戦争遺跡をまちづくりに活かす

●オープンエアーミュージアム・館山歴史公園都市

1995(平成7)年、広島原爆ドームのユネスコ世界遺産登録に先立ち、文化庁の条例改正により文化財の基準が改定され、戦争遺跡は近代の文化財として認められるようになった。

館山市では1989(平成元)年から、市民による戦跡調査と平和教育の実践が始まり、公民館講座を通じて、保存を求める市民運動へと発展していった。これを受けて、2002(平成14)年、館山市は(財)地方自治研究機構と共同調査研究事業に取り組んだ。『平和・学習拠点形成によるまちづくりの推進に関する調査研究—館山市における戦争遺跡保存活用方策に関する調査研究—』報告書によると、将来文化財として保存活用が見込まれる戦跡は市内に47ヶ所確認され、その多くの重要性が評価された。

A. 近代史を理解するうえで欠くことができない遺跡	18
B. 特に重要な遺跡	13
C. その他	16

館山市では、戦跡を組み入れた都市づくりの目標像を「地域まるごとオープンエアーミュージアム・館山歴史公園都市」と設定し、まちづくりの方向を示した。なかでも、市有地であった館山海軍航空隊赤山地下壕跡の保存・整備・活用を決定し、2004(平成16)年4月に一般公開が始まり、翌年には館山市指定史跡となった。

◇ 平和学習から始まった高校生のウガンダ支援活動 ◇

旧千葉県立安房南高校では、戦跡を活用した平和学習を契機として世界的視野を養い、自分たちができることを模索し始めた。戦禍によって孤児とエイズの蔓延するアフリカのウガンダ共和国へ支援することを、生徒会として決定した。1994(平成6)年以降、文化祭でウガンダ支援バザーや募金活動を行い、NGO ウガンダ意識向上協会(CUFI)を通じて約1,000ドルの支援金を送り続けている。生徒自身が身近な問題として関心を持ち、国際貢献として取り組んだボランティア活動であり、「子ども権利条約」の理念を活かした生徒会活動の実践である。同校の家政科廃止に伴って不用となったミシンを送り、技術教育を進めた。地道な支援活動が実を結び、2000(平成12)年には職業技術訓練施設が開設された。同校と同じ「AWA-MINAMI(安房南)洋裁学校」と名づけられ、建物正面には安房南高校の校章も掲げられている。

安房南高校は、1907(明治40)年に県下で2番目の女学校として安房郡立女子技芸学校が開校。安房高等女学校を経て100年にわたり、地域の女子教育に大きな貢献を果たしてきた。しかし2008(平成20)年春、統廃合により安房南高校の歴史は幕を閉じ、地球の裏側にだけその名が残った。地域の若者から撒かれた平和の種は、NPO法人安房文化遺産フォーラムが窓口となって、県立安房南高校JRC(青少年赤十字)部を経て私立安房西高校JRC部へと引き継がれ、安房・平和のための美術展などの市民活動とともに友情の絆を育んでいる。

20周年を迎えた2014(平成26)年には、旧安房南高校の女生徒像(船田正廣作)をCUFIに寄贈した。2017(平成29)年、孤児の送迎や物資運搬に使用していたワゴン車が水牛とぶつかって故障したため緊急支援を計画、クラウドファンディングを通じて130万円を集め、TOYOTA中古車を寄贈した。2018(平成30)年から、10月をウガンダコーヒー月間キャンペーンとして安房地域の24店舗が参加し、新たに支援を展開する取り組みが始まった。



●語り部から音楽や映画に活かす

◎小説『花』、映画『花物語』

郷土の音楽物語『花とふるさと』

戦争末期、7万の兵士が配備された房総半島南部では花作り禁止令が出された。苗は引き抜かれ、イモ畑や麦畑に変えられた。青年団による監視が敷かれ、花の球根や種子は焼却された。花農家は「非国民」といわれる時代、花を愛する農民たちは「花は心の食べ物」として、人里離れた山奥に種苗をそっと隠した。ささやかな抵抗であったが、そのおかげで戦後すぐ花作りが再開された。

戦後、田宮虎彦が小説『花』を著し、『花物語』として映画化（高橋恵子主演）されている。千葉県のうちごえ運動から郷土の音楽物語『花とふるさと』が誕生し、今なお歌い継がれている。



◎合唱組曲『ウミホタル～コスモブルーは平和の色』

館山は世界的にも有名なウミホタルの生息地である。旧安房中学校の勤労働員作業日誌には、生徒たちのウミホタル採集という記録がある。美しい輝きを放つウミホタルは、発光源となる酵素の液体を放出する。軍は、体細胞中に発光物質を有するウミホタルを乾燥して粉末化し、それに水や唾液などをつけて再発光させる研究開発をしていた。それは夜間のゲリラ戦に備えて敵味方を判別する夜光塗料や、懐中電灯代用の携帯用照明にするため、さらには特攻兵器が夜間敵艦船に体当たりするための「ウミホタル照明弾」として研究開発が進められていたという。

戦後 60 年の節目に、大門高子作詞、藤村記一郎作曲による合唱組曲『ウミホタル～コスモブルーは平和の色』が誕生した。



◎映画『赤い鯨と白い蛇』

タイトルの「赤い鯨」は夕日を浴びた館山湾で訓練していた特殊潜航艇を象徴し、「白い蛇」は家の守り神と平和を象徴している。せんぼんよしこ監督は県立安房高等女学校(後の安房南高校)卒業生。少女時代を館山で過ごした自らの体験を重ねた役柄を主演の香川京子が演じ、樹木希林や浅田美代子らとともに戦後 60 年目の館山を訪れ、亡くなった青年将校の遺品を探すというストーリー。掩体(壕)などの戦跡をめぐり、クライマックスシーンは、龍レリーフの残る128高地「戦闘指揮所」地下壕で撮影された。美しく豊かな自然やエネルギッシュな「やわたんまち(鶴谷八幡宮祭礼)」が、平和を願う女性の想いに重なる。 ➡ P.48,12



◇ 近年では、堺雅人主演の『日輪の遺産』が大網砲台跡で、佐藤浩市・香取慎吾主演の『人類資金』や一青窈のPV『蛭』が大房岬の探照灯跡で撮影されている。 ➡ P.47